

「失敗の中にも光明を」

山口県 華嚴寺住職 磯部誠司
けごんじ いそべせいじ

私はあるご縁を頂き、一週間ほどアメリカへ行くことになりました。コロナ禍の数年、県外はおろか市外にもほとんど出る機会がありませんでしたので、一気に海外とは！と、一抹の不安がよぎりましたが、その不安は見事に的中することになりました。私自身のミスで、なんと予定の飛行機に搭乗することが出来なかったのです。

急遽空港の方にアドバイスをいただき、急いで必要な手続きを取りました。そしてその日は、空港近くのホテルに宿泊し、翌日また空港に向かいました。こうして、渡米の許可が下りるのをひたすら待つ一日が始まりました。お昼になりお腹が空いたので、こういう時こそ好きなものを食べようと奮発して、空港の鰻料理店で好物のうな重を注文しました。予定通り出発していればこのお店で食事をするとはなかった訳ですが、渡米できることを信じながら鰻を美味しく頂きました。

その時です。四、五十代のアメリカ人のご夫婦がお店に入ってこられました。私の食べているうな重を見て「これはなんですか。美味しそうですね、これが食べたい」と片言の日本語を織り交せて私に声を掛けたのです。急なことで慌てましたが、私も必死に日本語と英語で説明し、そのご夫婦と隣り合っとうな重を食べることになりました。おいしいうな重を食べ、話すうちに互いに意気投合しました。ご夫婦は、渡米先のおすすめの観光地を「感動するよ。ぜひ行ったらいい」と色々教えてくださいました。おかげで、ご夫婦との楽しいひと時だけは、渡米手続きがうまくいくだろうかという不安をすっかり忘れて過ごすことができました。

その後、渡米許可が下りるよう念じてひたすら待っていました。残念ながら奇跡は起こらず、その日の夕方空港を後にしました。渡米が叶っていれば、様々な良き思い出が作られたのにと、残念に思いながら……。家に帰り、この度の失敗を悔やみながらも、この失敗が無ければこのご夫妻との良き思い出を作ることではできなかった……。そう思えるようになった時、私の心は不思議に穏やかになっていました。

「物事はうまくいった方が良い。成功した方が良い」誰もが思うことですが、世の中そう甘くはありません。残念ながら失敗しない人はいません。

私も思うようにならないことばかりです。失敗すると恥ずかしいし、周りに迷惑をかけた、嫌な気持ちになったり、腹が立ったりします。出来ることなら失敗しないに越したことはありません。しかし、もっと大事なことは、失敗してしまった後にどう立ち振る舞うか、そしてその中で、どう光明を見出すかということなのではないでしょうか。